http://www. edu. pref. kagoshima. jp/　（通巻第１５０４号）

指導資料

鹿児島県総合教育センター

社　会　第104号

－小，盲・聾・養護学校対象－

平成18年５月発行

基礎・基本の定着を図る小学校社会科学習指導の充実

－平成17年度「基礎・基本」定着度調査の結果を踏まえた指導法の工夫－

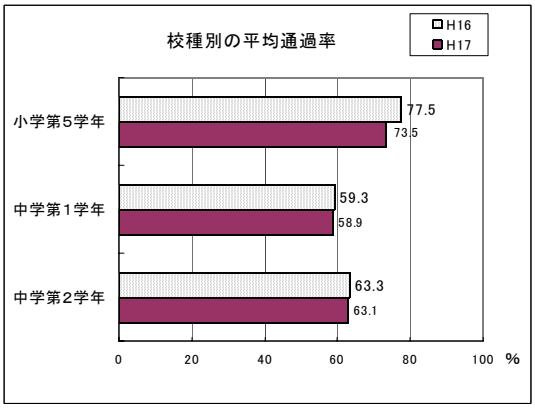
鹿児島県教育委員会では平成15，16年度に引き続き，平成17年度「基礎・基本」定着度調査（以下「今回」という。）を実施した。この調査は，学習指導要領が示す基礎的・基本的な内容のうち，「読み･書き･算」等の基礎学力について県全体の実態を把握するとともに，各校の課題を明確にし，きめ細かな指導法の改善に資するなど，基礎・基本の定着を目的として実施されている。

今回も，平成16年度「基礎・基本」定着度調査（以下「前回」という。）と同様に，小学校第５学年で国語，社会，算数，理科を，中学校第１学年及び第２学年で国語，社会，数学，理科，英語について，各学年すべての児童生徒を対象に実施した。 そこで，本稿では今回の社会科の結果について前回の結果と比較しながら分析するとともに，基礎・基本の定着を目指す小学校社会科学習指導の工夫改善について述べる。

１　定着度調査の結果と考察

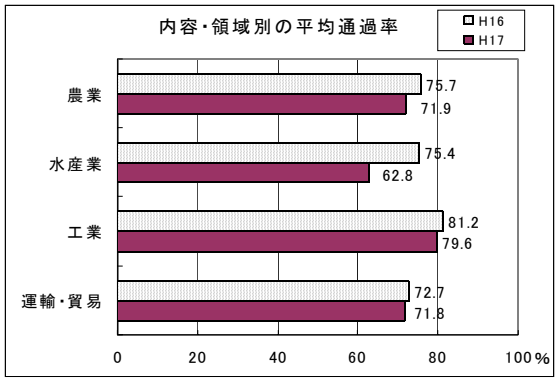
(1)　全体の平均通過率73.5％

今回の小学校第５学年の，平均通過率は，前回より４ポイント低い結果であったが，70％台であり，基礎・基本がおおむね定着していると言える。



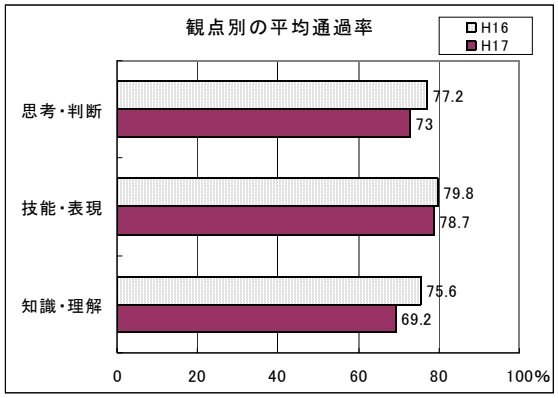
校種別で見ると，前回より小・中学校とも平均通過率は若干下がったが，小学校は73％を超え，中学校は第１学年が約59％，第２学年が約63％であり，前回同様，小・中学校間で格差(いわゆる「中一ギャップ」）が見られる。中学になると学ぶ量が増え，質も一段と高くなるので，小学校段階の基礎・基本については確実に定着させる必要がある。また，接続を考えた連携も大切である。そのためには，現在児童が学んでいる内容が中学校でどのように深まり，発展していくかについて，教師は中学校学習指導要領や教科書で把握するなど，内容の系統性等を踏まえた指導の工夫改善を今後一層進める必要がある。

(2) 「水産業」の内容の理解が不十分



「水産業」の分野が，前回に比べ12.6ポイント低く，また，他の内容・領域に比べても極端に低い。これは，資料から海流を選択する問題や養殖漁業の意味を選択する問題などの通過率が低かったことが影響している。「水産業」の特色をとらえさせる際，教科書と関連させながら，地図帳で主な漁港の位置や海流を確認する指導，統計資料を活用して水産物の生産額を丹念に読み取る指導などの充実を図る必要がある。

(3) 低い知識・理解の定着



調査を行った３観点においては，知識・理解が前回も最も低かったが，今回は，更に6.4ポイントも低くなった。教科書や地図，統計などの基礎的資料を丹念に読み取らせ，内容と関連付けを図らせるなど，知識を定着させるための学習の場と時間を実際の授業の中に位置付ける必要がある。

(4) 平均通過率が高い問題と低い問題

〈平均通過率が高い(90%以上)問題〉

大問	中小問	出題のねらい	通過率
7	(1)①	我が国の工業の中心の移り変わりを読み取ることができる。〈技能・表現〉	92.6%
1	(1)①	資料から食料自給の様子を読み取ることができる。〈技能・表現〉	92.2%
7	(1)②	我が国の工業の中心の移り変わりを読み取ることができる。〈技能・表現〉	91.6%
2	(1)①	米の生産量の多い都道府県を読み取ることができる。〈技能・表現〉	90.9%

〈平均通過率が低い(60%未満)問題〉

大問	中小問	出題のねらい	通過率
10	(2)③	石油を運ぶタンカーの特徴について理解している。〈知識・理解〉	32.4%
5	(2)	養殖漁業の意味を理解している。〈知識・理解〉	51.5%
4	(1)	日本の周りの海流の名称や暖流・寒流の意味を理解している。〈知識・理解〉	55.8%
2	(2)③	乳牛を飼育している地域を気候の特色と関連付けて読み取ることができる。〈技能・表現〉	57.6%
3	(1)	資料から稲作の工夫について品種改良の意味を理解している。〈知識・理解〉	58.6%

通過率が高かった問題は，前回と同様グラフや分布図から数値等を読み取る問題であった。これは前回と同様である。一方，通過率が低かったのは写真や分布図を参考に知識・理解を具体的に問う問題であった。このことから，資料と関連付けて基本概念の確実な定着を図る資料活用能力の育成が必要である。

(5) 前回の類似問題との比較

前回の問題と類似した問題として，以下の３問が出題された。

大問	中小問	問題の内容，前回と今回の通過率
2	(1)①	日本の主な米の産地が示された資料から，60万トン以上作っている都道府県を青森･新潟･富山･鹿児島から選択する問題 〈技能・表現〉 83.7%(前回) → 90.9%(今回)
2	(1)②	日本の主な米の産地が示された資料から，米の生産量が多い地方を東北･関東･中国･九州から選択する問題 〈技能・表現〉 59.5%(前回) → 63.0%(今回)
4	(2)	生産額の多い漁港はどのあたりにあるかを，主な漁港の生産額の資料を基に，日本海側･太平洋側･東シナ海側･瀬戸内海側から選択する問題 〈知識・理解〉 82.2%(前回) → 73.3%(今回)

いずれも分布図を読み取って答える問題であるが，表の見方や読み取りに関する技能・表現に関する問題は，前回よりも平均通過率が向上している。しかし，知識・理解を問う4の(2)が前回よりも8.9ポイント低かった。日本海側と太平洋側，黒潮と親潮の大まかな区別を地図上で知識として定着させるなどの工夫が必要である。

２　結果を踏まえた改善策

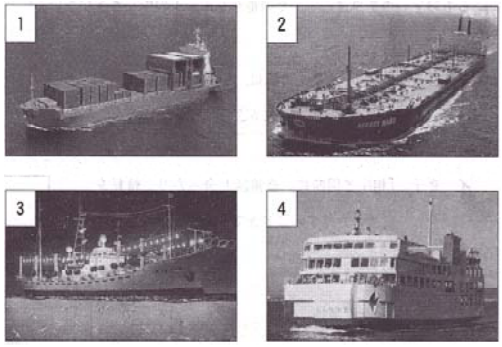
例年「基礎・基本」定着度調査問題は第５学年の２学期修了程度の範囲（農業，水産業，工業，運輸・貿易の内容）から出題されている。これらの学習では，地図や統計（グラフ・分布図等）などの資料を読み取り，様々な社会的事象と関連付けたり，自分なりの考えをまとめたり，その考えを基に意見を交流したりするなどの学習を通して，児童に基礎的・基本的事項を押さえさせ，同時に基本的な調べ方を身に付けさせていくことが大切である。

そこで，通過率が特に低い問題を３問取り上げ，その理由と改善の視点を示すとともに，今回の結果から課題として明らかになった資料活用能力を育成するための指導のポイントや，知識の定着を図り，理解を深める学習指導の工夫などについて述べる。

(1)　通過率が特に低い問題と改善の視点

ア　石油を運ぶ船はどれか，４枚の写真（貨物船，タンカー，イカ釣り漁船，フェリー）から選択する問題

〈10(2)③(通過率32.4%)〉



【考えられる理由】

- 誤答に写真1の貨物船が多い。物を運ぶ船は貨物船という考えが定着している。
- タンカーという言葉は知っていても，実際に実物や写真などを見たことがない。

【改善の視点】

- 石油という液体で重量のある物を大量かつ安全に運ぶのに適した船の大きさや形状はどのようなものか，写真資料や具体的な数値などを示しながら理解させる。